

両白山地 経ヶ岳

◎日 程：2016年9月25日 ◎メンバー：Yaza (L)、Kane

石川県の白山と、岐阜県の能郷白山の周りに連なる山域を両白山地と名付けられているということは以前書いた。そして今までに何度かその地域の山に登ってきた。この山々はあまり高くなく里山の感覚で登ることができるので、中高年の仲間入りをしている自分にもちょうどいい。夏は暑くて登り辛い、秋は紅葉がきれいで、冬は雪が深くてやはり登れず、雪が締まってくる残雪期は快適に登行できる。

いろいろな面を見せてくれる両白山地は面白山と云い変えて独りで満足している。よく見ると両という字と面という字は似ている。確かにそれほど高くない山々だが、いろいろな意味で楽しい登山ができる山である。

福井県の経ヶ岳という白山の三の峰から大野市に向かって延びる尾根上にある山に登ってきた。2年前の5月に沢沿いにこの山に向かったが、あまりの急登にバテてしまい切窓のコルという鞍部から経ヶ岳とは反対側の山々、中岳(1,467m)、杓子岳(1,440m)、保月山(1,273m)を経て下山してしまった。緩やかな山道と景色の広がった展望、そして下山後の長い林道歩きの際はタラの芽を採りながら、それはそれで楽しかったのだけれど。

今回も沢沿いのルートで登ることにした。アイゼンは必要なく軽登山靴で荷物は軽い。気分は楽だった。登山口が近づくに連れ見覚えのある景色があり、以前駐車した手前の橋を越えた。橋を越えた所に空き地があったのだが、今回そこは工事車両で埋まっていた。2年前の逆ルートで登ることにして林道を高度を上げながら奥へと進んだ。保月山の登山口には駐車場があったはずだ。そこまで行くことにしたが、途中で「林道修復中」の看板で通行止めになっていた。それでもここまで来れば登山口まではそう遠くはない。既に車が一台停まっていた。こんなマイナーな山に来る人が他にもいるんだなあ。

日曜日の8時だというのに工事は始められていて、ロープで壁にぶら下がり、道から切り立った法面にセメントを吹き付けていた。大きな音の中を工事車両を避けながら歩いた。保月山の登山口に着き、8時15分に山道に入った。やがて急坂になった。天気は良く、暑くなってきた。そして保月山の山頂に着いた。ここは山頂というようなピークはないと以前と同じことを思った。水分補給をして先に進んだ。しばらく行くと岩の尾根があり展望の良い所に出た。目指す経ヶ岳が格好良く聳えていた。

そして平らな山頂の杓子岳に着いた。ナナカマドの実が真っ赤になっていた。まさに秋山だった。

そこから中岳までは緩やかな尾根道が続き、久しぶりにトレイルランをしたくなる

ほどだった。中岳から一旦急坂を下るとそこが切窓のコルである。残雪期には雪だらけだったが今は灌木が一杯だった。

ここから少し下がると池ノ大沢湿原があるはずだが、鬱蒼とした森林に覆われていてよくわからない。

コルから目の前の経ヶ岳に向かった。かなりの急登である。ふくらはぎが痛くなってきた。上りの急坂が続く場合は休まずにゆっくりと歩むのがいい。保月山の登山口から登り始めて2時間30分、案外いいペースで1,625mの経ヶ岳の山頂に着いた。晴れていたのだが山頂の東側にはガスが広がっていた。

それでも歩いてきた方を眺めると、豊かな尾根が連なっていた。ガスがかかり涼しくなってきた。写真を撮り、来た道に戻ることにした。お昼ごはんは暖かい所で摂ろう。中岳まで戻り昼ご飯を食べた。赤トンボがいっぱい舞っていた。



《記録》

8:00 林道駐車地→8:15 保月山登山口→保月山→杓子岳→中岳→
10:45 経ヶ岳着—10:50 経ヶ岳発→中岳《昼食》→杓子岳→保月山→
保月山登山口→13:30 林道駐車地